我が主張と相容れぬ 報告書ならば
全權を引揚げしめ 断乎聯盟を脱退する

（東京廿八日發國通）聯盟委員會の報告書案については外務省に公電到着してゐないが右は第一部の全文第二部のリットン報告書第八章までの記述を採用し第三部の結論に於て第九章の諸原則を採擇し第四部の勧告に於て第十章の提議を日支交渉の準備とすべきを勧告し[illegible]我外務當局は報告書が
一、[illegible]
一、滿洲國不承認の意見を明確に[illegible]支持したり根本的に我が主張と相容れざるものであるから日本帝國政府は[illegible]考慮せざるべからず
一、滿洲國の獨立は[illegible]日本政府の計畫的行爲と認め[illegible]

何れにしても
最後的決議が必要
我代表部首腦會議

（ジュネーヴ廿八日發國通）我代表部首腦部會議は廿八日午前十時半より開會、一時間に亘り重大協議を遂げた[illegible]

右兩者の何れを選ぶべきが日本として愼重考慮すべき重要分岐點にあることを指摘せるものと觀られる、我方として右何れの場合にも規定方針を曲げる如きは斷乎排擊する穩健なるも更に代表部からの情報を待ち將來に對する萬善の策を決する筈である

日支紛争に關し 英國から我に新提案

（東京廿八日發國通）[illegible]

山崎滿洲里領事歸朝

（下關廿九日發國通）蘇炳文のため滿洲里に監禁された滿洲里領事山崎誠一郎氏は昨夜連絡船で歸朝した

リ報告書は附屬書として添付 事務局が新案の起草

（ジュネーヴ廿八日發國通）[illegible]るゝに至つた多數細目の點に亘る修正を施す目的の下に全然新たな報告書案の起草に取りかかつた、然して報告書はタイプライターで五六十頁の頗る廣汎なものとなる見込で、これにリットン報告書が附屬書として添附されることになると云ふ

衆議院の豫算總會

（東京二十八日發國通）[illegible]

[illegible]たら更に引上げる考へか

高橋藏相 爲替暴落の一方物價騰貴しその方面からも考慮を要す

中島彌團次氏 前説の誤りを悟らぬ淡白振りに敬意を表す

さ皮肉つた後軍事費に關し大角海相及び荒木陸相との間に（三三）應酬あり質問を打切る

（東京廿八日發國通）衆議院豫算總會は一時廿五分再開、政府提出追加豫算を議題とするに決定し、藏相の説明あり質疑續行、中島彌團次氏從量税につき質問

中島氏 更に國防費に關して八年度豫算の海軍國防の重點は既成艦艇の改裝其他國防の缺陷は艦艇の不足のみならず維持費の缺乏にもある

海相 八年度の兵備改善費一億五千萬圓は第二次補充計畫の一部である

中島氏 現在及び十一年度の日米海軍の比較如何

海相 現在では既成艦全體では七割主力艦六割補充艦八割で漸次低下する

中島氏 今後兩國の建造餘力如何

海相 日本は國防艦一二一、一三〇噸、驅逐艦九、二〇五噸で、米國は國防艦四三、七〇〇噸、巡洋艦七三、〇〇〇噸、驅逐艦一二一、五三〇噸、潛水艦二五、六三〇噸である

中島氏 尚ほも微に入り細に亘つて質問し、海相中島氏の情誼ある追駁に思はずホロりとする、中島氏更に今後の改築計畫を質す

海相 主力艦一隻約五百萬圓、陸奧長門以外のものを改裝したい

中島氏 續じて滿洲事件費は滿洲國に負擔させては如何

陸相 日滿親善の精神から言つても東洋平和の確立のためにも御趣旨に副ひたい

中島氏の長時間に亘る質疑を終り、政友會原氏を推して軍事豫算に海相、外相、首相、陸相と質疑應答し

海相 過去の我國の國防計畫は歐洲大陸の固定化したものを模倣した嫌ひがあつたが、今後は國家經濟など密接な關係を持ちながら國情に則り合理的國防計畫を樹立したい

旨を強調した、代つて海軍中將の肩書ある原口氏が陸軍豫算に專門的質問をした如く海軍豫算につき專門的質疑をなし、四時卅分に田中貢氏代り動產法施行が我が財界に及ぼす影響を承り度いと前提し藏相と一問一答を重ね午後六時七分散會した

獨逸内閣 五十四日で總辭職

（ベルリン廿八日發國通）シユライヘル將軍を主班とする獨逸内閣は佛國内閣總辭職さ時を同じくし廿八日午前突如總辭職を決行した昨年十二月四日組閣以來僅か五十四日目である

世界經濟會議に臨む 帝國の二大方針

（東京廿九日發國通）今春ロンドンに開催の豫定である世界經濟會議に帝國より津島財務官、河合ポーランド公使が代表として出席することとなつてゐるが、同會議に臨むに當つて執るべき我國の態度に關し大藏省では豫ねて考究中であつたが大體左の方針で臨む模樣で、その旨兩代表に訓令したとのことである

一、世界經濟の復興に對して日本は極力之が達成に協力することを宣言すること

一、金本位制の復歸については實現を希望すること、但しその時期方法は各國それぞれ事情が異るを以つて會議で一般的に規定せず各自その立場に於て適宜實施すること

一、關稅障壁の撤廢は望ましいことであるが大多數の國が金本位制を停止してゐる今日、到底實現は困難なるを以つて金本位復歸の後に於て改めて協議すべきものであること

九門口の我が軍を 支那軍が襲ふ

（錦州廿八日發國通）滿支國境九門口の我警備隊に對し廿七日未明石門寨より迫擊砲を有する一隊の支那軍が夜襲を行つて來たが、かねて配備中の我軍のために擊退された、土人間には再度逆襲の噂あり前所に出動中の我峡峨部隊は何時にても應援に進むべく異常な緊張を呈してゐる

蒙古軍の精鋭
日滿兩軍と協力し
草野機の搜索に當る

（洮遼廿八日發國通）當地に在る蒙古軍は我教官の試練によつてメキメキと精鋭化しつゝあるが、今回の開魯方面に對する行動には日滿兩軍と協力して先づ齋藤少佐の指揮する五百餘騎はハルモト餘糧堡に亘つて示威行軍を行ひ東行せんとする匪軍を追つ拂ひ、草野機の行方搜索には日本軍と共に出動して各所で蒙古兵の威力を發揮し當地方民の賞讚の的となつて居る

開魯市内平靜 城内外の兵力

（洮遼廿八日國通）飯田特派員發）開魯城内は廿二、廿三兩日の爆擊當日及廿四日は相當混亂を呈したが、我軍の爆擊が正確に民家及崔旅の兵營を避けるを知つて恐怖の念を一掃し附近の村落へ避難した者も續々歸り市中は平常の通り平靜であるが、城内の出入は非常に嚴重な取調べを行つて居る、城内には目下鮮人十數名あり專ら小作をなし、傍ら自作米の小賣りを營んで生計を立てゝ居るが、城内住民の人氣は何等日滿兩國に反感を有せず、鮮農は些かも迫害を蒙らず安住してゐる、尚一時開魯城内にあつた鄧文、李海靑の部隊は已に城外に出で、目下開魯城内には崔旅長の第五十八團約千名あり同十七團約一千名あり同五十六團ジャントラ街に駐屯してゐる

十八團約千名あるのみで、これによつて治安は維持されて居る

因みに目下開魯附近にある者は左の如くである

一、馮占海八千名　下窪駐屯
一、姚旅長、馮の部下約七千名　興隆地駐屯
一、宮旅長馮の麾下約七千名　八仙角駐屯
一、鄧文約二千名　天山駐屯
一、李海靑約二千名　華興公司農場附一帶駐屯
一、解國臣約五百名　老河南駐屯
一、石旅長の騎馬隊約三千名　赤峰駐屯
開魯城内及開魯洮遼間に崔旅の五十八團約千名あり開魯城

宣統舊帝の 北平入りの報
北平人民には贊成者多く 學良驚いて防止策

（北平廿九日發國通）過般來天津、北平にわり族人方面に潛行運動中の滿洲國某要人に對し學良は北平軍事委員長の名で逮捕令を出すに至つた、右は一部に傳へられる宣統帝の北平入運動に對し北平一般民衆中には豫想外に贊意を表明するもの多く成行重大視さるゝに至つたが爲學良が慌てゝこの擧に出でたものである

路永才匪 一千名歸順

（富錦廿八日發國通）當地一帶に蟠居して一時暴威を振つて居つた路永才匪一千は同江縣長の盡力で當地の我小濱守備隊長に歸順を申込み、廿六日無事武装解除したが、其の人員九百二名押收の小銃七百四十七挺銃彈數萬發に達した結果歸順兵をもつて産業奉公團を組織して地方産業の開發を行はしめる事となつた、武装解除で食ふに心配した路以下將卒は大いに喜び近く事業に着手する筈である

山海關灤河の 兵力十萬を算す

（奉天二十八日發國通）支那側は引續き軍隊を熱河に集中しつゝあるが孫殿英の小西軍三萬も熱河に集中すべく出發した、これで支側の熱河作戰の兵力は山海關附近三萬、灤河附近四萬八千を合し約十萬に達してゐる

馮の南下 未だ未定

（北平廿九日發國通）張家口來電によれば中央政府より馮玉祥南下勸説のため派遣された王法勤は廿七日夜當地到着直ちに馮玉祥と會見、此の國難時に當り中央にあつて救國のため協力されたしとの蔣介石の親書を手交極力この南下を勸説したが馮はその會見後新聞記者に語つて曰く

中央政府が果して眞に抗日を決意したなら余も國家のため犧牲になる事を躊躇しない中央委員等からは余に對して既に閻錫山、李烈鈞唐生智、陳濟棠にも出京を促したから余にも出京せよとの電報を受取つて居る、余は之に對して先づ余が出京する前に中央の眞の決意を聽くため十二項目の質問を送つたが、余の南下は未だ決定してゐない

楊杰を北平に派遣

（北平二十八日發國通）中央政府は學良と協力北支の時局に善處せしめる爲めに楊杰を北平派遣に決定、三十日到着の豫定である、蔣介石の江南出陣により何應欽が北上不可能となつた爲め楊杰が選ばれたもので學良下野の際北支集結の約二十萬の軍事的統率者たるべしと見るものも多い

朱慶瀾の義弟 通遼攻擊を企畫す

（奉天二十八日發國通）書近通遼より營口に歸れる一材木商人の談によれば、目下通遼附近には三面好、平滿洲の約二千の僞勇軍、一千の蒙古匪賊がありまた僞勇軍總司令朱慶瀾の義弟朱慶波が騎兵獨立團を組織せんと活躍し通遼を突かんとする形勢あり、これが爲め打通線の貨物旅客輸送も激減してゐる

學良また 武器を買込む

（南京廿八日發國通）前日ドイツ汽船のルドマルク號浦口に入港して夜間秘かに多數の兵器を陸揚げし貨車に積込みつつあるが飛行機材料と高射砲で津浦線に依り學良軍に送られるものであると噂されてゐる

最後の肚を指示せよ
代表部請訓内容

（ジュネーヴ二十八日發國通）日本代表部首腦部會議は午前に引續き午後六時から再開された、最も主なる議題は既に午前の會議で得た請訓案を其の後の情勢に照らし修正する餘地なきやに關するものであつた

之に對し松岡主席全權並に同日午後ドラモンド氏と會見した杉村次長より意見の開陳があり結局午前の會議で作成の請訓案に殆んど手を加へず可決し一時間半の後午後七時半散會直ちに本國政府に請訓を發した請訓の内容は大要左の如し

一、今日までの起草委員會及び各國側の態度に顧する實情を更に全般的に鳥瞰し最近の情勢を概説

二、右の情勢に照し日本が今後共規約第十五條第三項に依る折衝を續けて行かうとすれば聯盟と如何なる程度迄意見の一致を圖つて良きやその限界點如何

三、代表部は最後迄折衝に最善の努力をなさんとするものなるも右一致點を見出すに至らず第四項による報告が總會に提出された場合如何なる手續きに出づべきかなるかが到底日本の默認を許さざる場合は日本としては代表引揚げの擧に出るのみならず聯盟脱退を敢行すべきにあらざるか第一項の事實によつて見るも委員中には聯盟が第四項に移つても結局何も出來ぬそれに勸告の起草など極めて至難であり且つ日本を聯盟より脱退させても何等解決に貢獻するところがないとの意見も一部に傳へられる事實あるもこれとて如何なる程度迄眞なりや計り難何れにするも代表部は右するか左するか最後の肚を極めて掛らねばならぬ、仍つて代表部は以上あらゆる場合を豫想し政府最後の決意を指示されんこ

我が軍部で 聯盟脱退を決意す

（東京廿九日發國通）陸軍では聯盟に對する希望を拋棄し、右の理由から既に脱退を決意し在ジュネーブの軍部全權に對し

「既定方針に邁進せよ、最後は脱退にあるのみ、不利な言質に警戒せよ」

との密電を發した、即ち聯盟規約第十五條第四項を適用しやうと第十六條だらうと軍部としては關與せず、聯盟の我に對する手段としては第一對日經濟封鎖及び第二對日武力壓迫か或は第三南洋委任統治問題に對する壓迫等三個の場合を豫想されるが第一の場合を豫想するに公債爲替に多少の變動を見る程度で株式市場にパニックの起る心配もなく第二の場合に於ては正義のためには日本が焦土と化するも敢て辭せない更に第三の問題に就て見るに今日の狀勢では南洋委任統治拋棄の理由は毫もない從つて軍部は聯盟を離れ獨立獨步が帝國の方針であると決意するに至つたものである

英大使が 内田外相に重大な意志表示

（東京廿九日發國通）英國大使リンドレー氏は昨日午後内田外相を外務省に訪問し約二十分會談したが會談内容は嚴秘に附されてゐるが本國政府の訓令に基き聯盟問題で頗る重大な意志表示をなしたものらしくサイモン外相は今尚は第三項の和協手段の可能性につき希望を失はず英國政府の意向を傳達し帝國政府の眞意を確めんとさせるものと信ぜられるが聯盟の形勢は第三項に復歸するには日本の再讓步が條件となつてゐる、日本として最早やこれ以上讓步の餘地なしとして居りサイモン外相が一月二十日の日本提案を十九ケ國委員會に受諾せしむることに成功せぬ限り局面打開は出來ぬ模樣である

[illegible]ことを切望す、右何分の回訓あり度し

北寧線驛員 全部が逃走す
滿洲國の善政に憬れ 採用されたいとて殺到す

（山海關廿八日發國通）當地の鐵道職員は北寧側三百餘名と奉山側八十餘名で連絡運輸を行つて居つたが今回の事變に依つて北寧側は驛長以下全部逃走し目下奉山側で兩驛の鐵道事務を行つてゐる、處が最近に至つて一度天津方面に逃げた北寧線驛員數人が歸驛して奉山側に採用せられた事を知つた逃走驛員は續々と歸り來つて奉山驛に奉職方を出願中の者が二百三十餘人に達する盛況を呈してゐるこれに見るも當地方の住民が滿洲國の善政に如何に憬れて居るかを察知する事が出來る

開江下流で 我軍紅槍會匪と衝突

（富錦廿八日發國通）當地における路永才匪團の歸順式に際して豫め逃亡兵を警戒するため開江附近に派遣せられた我當地守備隊の一部は吹雪の中に開江と同江の中間で約二百名位の紅槍會匪と衝突し交戰一時間余にして之を擊退した、敵は死体三十余を遺棄して潰走したが、此の戰鬪で我軍は戰死兵二名、負傷兵一名を出したが他は元氣で堂々本日當地に歸還した

人事往來

▲南里順生氏（滿洲日報新京支社長）二十九日朝大連より歸任
▲小川進中氏　二十九日朝來京富士屋旅館滯在中
▲板垣少將（奉天特務機關長）二十八日午前八時來京
▲中田圭介氏（滿鮮運輸ハルビン所長）二十九日午前八時四十分ハルビンへ
▲松尾承氏（警視）同上
▲森本中佐（ハルビン線區支部長）二十九日午前九時南行
▲松室大佐（チヽハル特務機關長）二十八日午後七時五十分來京
▲佐々木大佐（第〇〇團參謀長）二十九日午前九時五十分來京
▲松浦博士　二十九日午前十時十五分來京
▲槌田三等主計正（奉天關東軍倉庫）廿八日午後七時五十分來京
▲依里春（中東鐵路管理局副局長）廿八日午後九時吉林より歸京
▲金卓氏（執政府侍從武官）同上
▲德楞額氏（京師憲兵司令部）同上
▲刑士廉氏（吉林鐵道守備隊司令官）廿八日午後七時五十分奉途より歸京
▲宮田奘内氏（官吏）二十九日午前九時奉天へ
▲飯島中佐（大連工業學校軍事教官）二十九日午前九時南行

天氣豫報

二十九日の氣温最高七度二、最低同二十一度、三十日は南西の風晴れ

また新京驛の親時計が停る
十時半のまゝ動かず
大連から技師さんを急聘

二十九日時ならぬ春風に誘はれてか新京驛の親時計がまたく狂ひ初めた、その管驛内八十余りの子時計が全部十時半で停つてしまつたので、新京驛では早速市內の時計商に修理を頼んでも、どうしても直らず、大連より技師を呼寄せる事となつたが四五日はかゝる見込である

佐郷屋、松木公判

(東京廿八日發國通)濱口前首相狙擊事件の佐郷屋、松木の兩名にかゝる殺人罪並に殺人幇助罪公判は二十八日東京控訴院で行はれ檢事は前審通り佐郷屋に死刑、松木に懲役十三年を論告したが次回は三十日の筈である

尊き五勇士に間違ひなかれ
歸還の岩下飛行第○隊長撫然として語る

開魯を中心とする一帶を完膚なき迄に爆擊熱河軍の心膽を寒からしめた飛行第○隊長岩下新一郎大佐は昨廿七日朝一部隊を殘し新京に歸還したが熱河攻擊の第一線の實情に就て往訪の記者に語る

今度の戰鬪では我々は極めて大きな損害を受けた、飛行機の損害も大きいが五名の忠勇なる部下の生死の氣遣はれて居る事は最も大きな打擊だ、十數年の訓練の下に育つた優秀な部下だ、生きて居て呉れゝばいゝがと大佐はさすがに感慨無量の体だ

今度の我々の任務は開魯ハルモト方面にある敵の各司令部に對し爆擊を加へる事だつた

つまり通遼はあの邊りでは大都會だから先づこれを占領する敵の心算がみえたので我隊は爆擊に依つて敵の機先を制してこれを未然に防止したわけだ、開魯城爆擊を開始したる殆ど皆逃げ出した、殘つたのは崔興斌ぐらひのものだ

我々が商家を爆擊しないことを知つてゐる敵は機影を認めるや直ちに商家に避れるので始末が惡かつた、然し敵も今度ばかりは空軍が如何に大きな威力を持つてゐるかを膽に銘じたどらう

大抵の事には抵抗して來た匪軍も今度こそ空軍の爆擊には抵抗の途がないことを知つたやうだ、草野機搭乘者生存說はある、しかし密偵の報告ではにはかに信をおき難い

藤本ツル子さん 防空費一萬圓を寄附す

(神戸廿八日發國通)神戸の藤本ツルと言ふ七十八歳のお婆さんは廿八日陸軍防空費として一萬圓の寄附を申出でた老婆は四十幾年前夫に死別れ女手一つでためた金である

明け行く大黒河へ (二)
嫩江にて 北太市

之より先江省軍の伊拉哈到着か遅れて先發隊たるべき大行李班は燃料、糧食の關係から出發は二十日午前零時といふことになり、その嫩江到着は早くても二十一日中とある、周司令の出發も自然遅れることになつたので二十日は嫩江に滯在のまゝ各機關代表者を招致して新國家成立の意義を說き聞かせ旁々彼等の要望を聽取するに豫定が變更された、小閑を得て自動車中に周司令を訪へば風邪氣ながら元氣で語る

余は騎兵で元來馬に乗るのが本式である、馬ならばどんな强行軍をやらうとどんな寒さに遭遇しやうと平氣で今日迄風邪一つ引いたこともないが今度は贅澤にも自動車なんかに乗つたものだから天罰覿面御覽の通り風邪に冒されて態か無いと先づ破顔一笑、種々細いことまで心付けて呉れる、周司令は周知の如く酒も煙草もやらない、阿片に至つてはその最も忌む所、然も情に富み部下を愛するは亦人一倍で眞に北滿隨一の名將たるを失はない、早い話が明日の行軍を控へて此の日吊下を督勵した文句もザツと次の如くである

嫩江を離れると先は沿道の部落その八十パーセントは兵匪に荒されて居り本隊の行軍は恰も無人境を行く如くその難澁さは今から充分覺悟して居て貰はなければならない

然し我が軍は名譽ある江省騎兵部隊中から更に選拔された所の最精鋭最優秀と自他共に許してゐる軍である今後如何なる困難に遭遇することも斷じてへこたれる事無く、完全に責務を果し充分その眞價を發揮して貰ひ度い

そして我が周司令は眼頭に光るものさへ見せて居るのだ(十九日夜記)

□

嫩江出發廿日の豫定が、大行李班の到着遅延のため狂つて來た、それに嫩江から先一二個所に小匪賊が蠢動して居るとの情報があり、今少し的確な偵察を遂げる必要も起きて來た

即ち黑河に移駐する第三旅の騎兵二團は目下嫩江に待機中であるが、之より先、先發輸送班はトラツク八臺に軍需品を滿載し、十八日黑河に到着翌十九日そのまゝ嫩江に引返したが、途中廿里河附近で晝食中約六十名の逃亡兵(元徐景德部下)が不意に襲つて來た「亡國の軍隊に天誅を加へろ」と絶叫しつゝ死物狂ひでかゝつて來たが豫ねて警戒中だつたので何等の犠牲も出さず、これを擊退したとの報告があつたのだ

氣を逸ひ出すと、際限が無いが、嫩江から先小興安嶺附近には、まだまだ外にも戸迷ひ軍隊が居るらしいと幹部方面の意見略一致し萬一の場合を豫想して改めて訥河に待機中の步兵○軍と聯絡を取つた

斯うしたごたごたの中にトラツク二臺が役立たなくなつたと運轉手から報告して來た、無理して行けない事もないらしいのだが、これから先廢墟に等しい沿道で、若し立往生でもしたら大變だといふのである

早速チチハルに補充方を手配すると今度は大行李班に委せてあつたガソリンが途中で搖られ方がひどかつた爲めにハンダが外れ嫩江到着の際三十五箱からあつたのが滿足なのは今は數箱しかないと言つて來る、これまたチチハルへ電報しなければ補充の途がない、一同元氣だけは旺盛だが斯うした豫期しなかつた故障が續出して聊かへコタレ氣味である(二十日)

□

周司令閣下の騎兵第○團○○○名は本二十一日午前六時陣容を整へて一路黑河へ出發した一行は同團より一日遅れて出發する事に手筈が決つた嫩江滯在中見聞したことはいづれ詳細に書きたいと思ふが物資の缺乏振りは想像以上である、市中の疲弊狀態また隨分ひどい

一寸聞いた丈けでも

米は一斤八十錢、常食の粟卅斤十五圓、酒一合四十錢(いづれも黑龍江大洋即ち日本金の七掛見當)

といふ有樣である、嫩江は戸口一千三百と稱せられるが、その過半數は空家で、表口は固く釘附けされて居る、實に慘憺たる狀態だ

商店といつては全市で僅かに七軒だけ、通用してゐる紙幣は所謂馬大洋といふ馬占山が發行し徐景德が繼承したもの相場は馬大洋二圓五十錢で漸く江大洋の一圓に相當する程度だ(未完)

上海事變戰沒者の記念碑除幕式 橫須賀鎭守府で

(東京廿八日發國通)橫須賀鎭守府では二十八日一周年記念日に當り上海事變の戰沒者記念碑の除幕式を舉行したが海軍大官二百名遺族參列する所あつた

早蕨乘組員の合同葬盛大

(吳廿八日發國通)舊臘十二月三日臺灣沖で遭難した早蕨乘組の門田艦長以下百四名の海軍合同葬は廿八日吳海軍第一練兵場で盛大に舉行された

天津に時報協會

(奉天廿八日發國通)去る一月十七日天津に於て時報協會なるものが省政府の同意を得て組織され會長に南開大學校長張伯苓氏が推薦されたが之は

一、地方委員會の組織
一、婦女子の中國團体
一、通信部の設置

を議決し萬一の場合を豫想して對外的宣傳方法を講ずると共に天災等に於ては被難罹災民等の救濟に當ることとなつてゐる

醉ひどれ四人
亂暴して檢束さる
酌婦、樓主に手傷を負はす

二十八日午後六時三十分頃市内東二條胡同李昌明(三四)、祝町四丁目康承周(三五)、富士町三丁目東文炳(四五)及祝町二丁目吳金文(三三)の四名は何處で呑んだのかしたゝかに醉ひ、三笠町朝鮮人料亭批峴館に來り酒肴を要求したが泥醉してゐる爲それを拒絕されたのを威猛けだかになつた四名は料理店で酒を出さぬとは怪しからぬと偶に居た數名の抱酌婦を毆打し、內照子の頭、胸、腰部に治療一週間の打撲傷を負はせなほ仲裁に入つた女樓主の右腕に咬く等暴行を働くので新京署に檢束された

雪の巻

ホクアタクセなイ
(雪の巻)(イチロ作)

ネエチヤン ボク コワクナツテキタ
ホントニネ ナンノヒデシヤウ
ホラ ネエチヤン ヒカ ミエル
ユビノサキニ ヒヲツケテラア
ドウシタノ コドモタチ

新京街頭風景 (B)
『滿洲國官吏首のスゲ替を要す』
ある同業者の總會で滿場一致可決

僕は醉つて云ふんぢやないが、どうも滿洲國の日系官吏て奴の覺醒を促すのが目下の急務だね—今夜僕等同業者の總會では彼奴等の罷首のスゲ替へを要すツて決議をしたんだがね、堵て此決議を叩きつけるだけの度胸は無いんだ、蔭辨慶で强がりを云ふだけで、自分の商賣が可愛いゝから、俺がその役を買つて出ると云ふものは無い、賄賂かね、殆ど公然と行はれてゐるんだ、其多寡によつて仕事をくれもすればくれもしない……とX氏は慨然として語るのであつた

×××

彼等の腐敗墮落は甚しいものだ、何れも內地などでは夢にも見られないやうな地位や椅子を與へられ、喜びのあまり有頂天になり、自分不相應な遊蕩まで味ふやうになつて、トドのつまりが腑まで腐り果てゝ、懐中もなく、どんな不正な金でも得やうとするやうになるんだらうと思はれる

×××

こないだ僕の店へブラリとやつて來た相等地位の人物が「ある品物を或店から納めるやうになつてゐるが、どうも君の店で納めて貰つた方がいゝやうに思ふ、一体あれはどの位かゝる」と尋ねるので、これ〳〵で五百五十圓位かゝると答へると、そりやアいゝ事を聞いた、先方はもつと高價だ、然しそれだけの値打があるかどうか疑問だし、第一君の店の品は堅實なものであるといふことは定評になつてゐる、僕の方直接購入するのではない、需要處が扱ふのだが、僕の方から希望すればどうにでもなる、ところですまないが君、見積りに六百五十圓と書いて出してくれたまへ、それでも他の店よりは廉いんだ、必ず君の店から納めて貰ふことになる、尚またちよつとでひにくいが僕差迫つて入用があるんだが百圓貸してくれたまへ、これからも君の店に儲けさせるよ、と洒蛙〳〵と述べたてるんですぜ、その名まへ、そりや氣の毒で云へない、それからどうしたツてのかね、御承知の僕の氣象だ、箆棒奴君アお稻荷さんの鳥居へ小便でもひつかけ、どうかされてるんぢやないか、味噌汁で面洗つて出直して來ると蹴ッ飛ばした、あはゝ……と

新京驛の乘降客
平常の三分の一
舊正で家の中でドンチヤン

舊正三日間の新京驛の乘降客數を調べるとこれは又意外新暦の反對で平常の三分の一にも滿しない、これは舊正には滿洲人は家の中に引籠つてドンチヤン騒ぎをする事に決つてゐるからで、三日間の乘降客を示すと

	降客	乘客
二十五日	六七一	一、六五〇
二十六日	六二一人	八五三
二十七日	六三三	八六六

森本警務課長 檢閲に來京

森本警務課長は管內各署の事務巡閲中の處三十一日午後七時五分來京二月一日から新京署事務の檢閲を行ふ筈である

在留地徴兵身體檢査
受檢手續二月二十八日まで

昭和八年度在留地徴兵身體檢査に關しては嚢に兵役法施行規則第八十一條に基き關東軍司令官より公示せられたる處なるが新京署管內當該者は約二百名と註せらるるに出願者は未だ百名に過ぎず、手續を詳說すれば左の如し

在留地檢査願(樣式)
本籍 何々……
在留地 新京何々……
(同誰方等詳細に記入すること)
戸主何之誰何男弟等
氏 名
生年月日
右在留地に於て徴兵身体檢査受檢致度候に付御許可相成度候也
年月日 本人 氏 名(印)
關東軍司令官殿

○本願書は二月二十八日までに所轄署館(新京附屬地に居住する者は新京警察署兵事係へ)に差出すのである

官廳では願居の用紙を支給しないので、新京署兵事係では帝國軍人後援會新京地方委員部から寄贈を受けて出願者に渡してゐる

○檢査の執行期日五月中で檢査場は未定なるも新京では室町尋常高等小學校が充當されるらしい、本年は從來に比し該當が激增してゐるから四、五日間に亘り執行されるであらう、確實なる日時及場所は三月下旬身體通達書を以て告知せらるゝのであるから願出の取扱ひを受けた各署館には住所を明らかに報じて置かねばならぬ、

○新京に於て願書の取扱ひを受けたるものが他の署館管內に住所を變更し其の管內にて受檢せんとするとき又は都合に依り內地に歸還の上受檢希望の向は其の手續につき兵事係へ承合するがよい

本社の名を騙る者に御注意

最近市中を新京日日新聞社宣傳部の者だと稱し、博多燒まがひの爆彈三勇士の壁掛を賣歩き、尚その賣揚を遺族に贈ると云ふやうなことを仄めかし殆ど押賣的に女ばかり留守してゐる家などでは非常に迷惑すると本社へ電話で實否を尋ねて來るものがあるが、勿論本社ではそんな行商を出す筈もなし、本社の名を騙る者であるから立廻つた際は警察か派出所へ訴へ出られたい

花街 深いエクボ

こゝに御紹介致しまするは七分通り雛化した藝者の卵であります、八千代館の千代子ことトシちやん十五歳、お客さんがからかいましても只だまつて笑つて居ります、その笑顏が何とも云へない可愛らしいところがあると、人氣を一身にあつめて居ります、ニツコリ笑ふとかさくない糸切齒があらはれ、深い〳〵エクボが現れます、將來このエクボの魅惑に陷るものがずいぶん多いことでありませう、近年滿十四歳以上でないと舞妓として抱へ入れることが出來なくなつて居りますので、この千代子もそれに準據して抱へたもの、これから大に勉强して一人前になるんださうであります、然し舞妓としての素養は少いが、裁縫學校は二年まで行き、家事の稽古も一通りは終つてゐるさうです、ちやアすぐお嫁に行けるねと云ひますとあらいやだとニツコリ、この妓のエクボを見たいものは笑はせるべしです

ラジオ欄

三十日(月)
奉天後五、〇〇 レコード
新京後五、二〇 演藝
東京後六、〇〇 講演
新京後六、四〇 ニユース
東京中央放送局編輯
新京後六、二〇 時事解說
(朝鮮語)氣象豫報及滿洲語ニユース
新京後七、三〇 ニユース
(英語)
新京後七、四五 ニユース
(露西亞語)
新京後八、〇〇 ニユース
(朝鮮語)
新京後八、一五 ニユース
氣象豫報、放送局編輯及プログラム豫告
東京後八、三〇 時報
東京後八、三一 ニユース
東京中央放送局編輯

鮮魚小賣相場

活鯛 一五〇 一九〇 / 氷鯛 六五 七〇
冷鯉子 三六 / マグロ 一四〇
ブリ 二六 / サバ 三五
キス 二〇 / イワシ 一六
マナカツオ 三一 / タコ 二二
水貝 三〇 / 赤牛子 四〇
イヒタコ 三〇 / 甲イカ 八〇
イセエビ 一〇〇 一四〇 / 車エビ 一五〇
カニ小 二六 / ハモ 二〇
カキ 四〇 / アワビ 八〇
アナゴ 一三 / カマボコ 二三
チクワ 一〇

凄艶紅涙双（せいえんこうるゐさう）

（鏡上映上演）　鈴木彦次郎作　飛鳥久緒畫

（一九二）

—やがて、晝さがり。隊長は参政なぎ野嘉兵衛監察二見虎三郎を伴つて、歸隊した
—蒼龍窟は、折から來合せた會津の部將と、密議をこらしてゐたゝめ、出向けなかつた。

「うゝむこれが、問題の空舟ぢやな、げにもなる程と、水路をさぐるための敵の手段かもしれない、だが、さう騒ぎ立るには及ぶまい目られい、信濃川は、なほ、濁流蹈々とうづをまいて、ながれてゐるではないか。土地不案内の敵兵何で、今日明日のうちにこの激流をわたつてくるものか。」

なぎ野嘉兵衛は無雑作に云ひはなつた、しかし、半六は大の不服である。

「これは、異なことを承る。數多の舟を犠牲にして、水路を確かめて置かず、安閑として川をわたらぬ間抜けがどこにありませう—まして、奇兵縦横の敵兵明日とは云はさず、大島から、水流にしたがつてこゝ寺島におしよせる計畫と愚考致しますが——」

つめよる半六につゞいて。長谷川隊長も、寺島の島浦が手薄なことをなげいて、援兵増發をしきりにこふた。

だが、監察二見虎三郎も、参政の説に同意して、ながく援兵をさしむけることを承知せぬ。

「それア貴公等の意見のむちやよ。けれど、我々でさへ、うつかり、航を出せぬこの大水。奴ら、如何に、あせつてゐるにもせよこゝ二三日は断じて渡れぬよ、その内に、味方は、かねて計畫とほり巧に迂廻して、敵の本營小千谷を衝く手筈になつてゐるではないか。さつきも、總督が話して居られたぞ!」

「弓削、まアさう氣をもむな明後日になれば、對岸の敵なきにらさこゝろに潰ゆぢや。心配せずに時をまつて居れッ」

参政と監察は、あくまであさつての奇襲をたよりに、當面の敵を甘くびつてこともなげに立去つた。

けれども、長谷川隊長も、弓削半六もさうも不安でたまらない。——その日の戰は、相變らず、河を隔てゝの砲撃のみでおはり夜に入つたが、寺島の守備隊だけは氣が氣でない。

中にも、半六は、夜ッぴて、岸邊にうづくまつて、警戒の眼をみはつてゐたが、丁度、夜明の七ッ半——ほうッと東の空が白んだころ合、河の中流にあつて、何やら、ざわつく音!

「さては」

きつとなつた半六、濃霧をすかして、川面に眼をはなてば案に違はず、軍兵數多を乗せた船が十餘艘へさきを並べ、流れのまゝに、波を蹴たてゝ此方に漕ぎよせる形勢!

「敵だ敵だッ!遂に河をわたつた押寄せ参つたぞ」

連呼しながら、半六は、夢中で屯所に驅け込んだ。

「すわこそ!ござんなれ」

かねて、覺悟の守備隊、長谷川隊長の指揮のもとに、やをら、銃をとつて、飛び出したが、その時すでに、敵兵は、岸邊附近に、漕ぎよせてゐた

「撃てッ!」

號令一下、忽ち、朝霧のうちにパッと飛散る火化!船べりをかすめて、うなる銃聲!俄然、猛烈な小銃戰は、はじまつた

けれど、けれど——船は、後から／＼、濃霧をやぶつてあらはれてくる。

こつちは、もとより、少部隊しかも、半數か、藏士にさしむけた殘りだ